

科目「情報Ⅱ」シラバス

1. 教科到達目標

情報の科学的な理解を深めつつ、情報活用の実践力を身につけ、情報社会に積極的に参画する態度や好奇心を養う。	世界で起きている情報通信技術の問題に目を向け、それに対する自分の考えを表現できる能力を養う。	情報機器や情報通信ネットワークなどを適切に活用して情報を収集、処理、表現するとともに、効果的に問題解決やコミュニケーションを行う能力を養う。
--	--	--

S：想定以上に該当能力の醸成が達成されたと判断されるもの

A：期待通りに該当能力の醸成が達成されたと判断されるもの

B：部分的に該当能力の醸成が達成されたと判断されるもの

C：該当の能力の醸成が不十分と判断されるもの

2. 科目の到達目標と評価の観点

	単位数	学科・学年・学級	使用教科書と補助教材
(教科名) 情報 (科目) 情報Ⅱ	2 単位	第 2 学年	教科書：使用せず 問題集：ベストフィット「情報Ⅰ」 実教出版
学習の到達目標	共通テスト「情報Ⅰ」で、8割をとれる実力をつける。		
評価の観点	<知識・技能> 選択問題でミスなく正答できている。		
	<思考力・判断力・表現力> 必要に応じてPCやアプリケーションを使いこなすことができる。 教科書に出てくる用語の意味を、文章で説明できる。		
	<主体性・多様性・協働性> 課題を期限内かつ手を抜かずに提出することができる。		

【点数化が難しい課題については、観点別評価とする。】

A：「十分満足できる」状況と判断されるもの・・・100%

B：「おおむね満足できる」状況と判断されるもの・・・80%

C：「努力を要する」状況と判断されるもの・・・60%

D：未提出，未実施・・・0%

3. 教科横断活動

1. 数学科との連携

「データ分析」では、公式や理論を数学で学習後、相関係数を統計ソフトウェアなどで算出し、データ分析力の向上をはかる。

2. 家庭科・公民科との連携

①家計調査のデータを用いて、収入・支出のバランスを統計ソフトウェアで算出し、家計のやりくりを学ばせる。金融トラブルは公民科で指導し、家計で苦しくなると金融トラブルに巻き込まれるリスクが高くなることを実感してもらう。(実施未定)

②GIS（地理情報システム）について、地理で社会での活用状況を学び、情報で可視化する方法を学ぶ。ボロノイ図の活用も学ぶ。(実施未定)

3. 探究基礎との連携

①探究基礎で考えた論文テーマに従って、情報科でプレゼン資料作成を行い、中間発表を行うことで、優秀者を選定し、クラス代表を決定する。クラス代表者は、探究基礎の授業内で学年全員の前で発表する。(9月～10月)

②論文作成のために、Word や Excel など基本的なビジネスソフトのリテラシー向上をはかる。(10月～11月)

4. 理科(物理)との連携

物理の授業でボールの投げ上げ（斜方投射）に関する公式や理論を学習後、Python を用いてプログラミングする。

5. 外部機関と連携・コンテスト等へ参加

大妻女子大学 社会情報学部の先生と連携する。例えば、ドローンをキャンパス内で飛ばし、社会の中でどう役立つか体感してもらう。

4. 学習計画及び評価方法等

月	単 元	学習のねらい	学習のポイント，使用教材等
4 ～ 2 月	全範囲	「情報Ⅰ」で習ったことを整理する。 練習問題を通して、共通テストに通用する力を無理なく身につけさせる。	①習った事を、その日のうちに復習する。 ②問題集を日々宿題として課す。 ③考査前に、演習の時間をとる。
評価の観点及び内容			評価方法（具体例）
＜知識・技能＞ 教科書で扱った言葉や事象を理解し、問題集が解けるようになった。			定期考査（70%）
＜思考力・判断力・表現力＞ PCを用いて有効な問題解決手段を選択できるようになった。 教科書で扱った言葉や事象を、文章を使って説明できるようになった。			授業の様子や提出物出来(20%)
＜主体性・多様性・協働性＞ 宿題を欠かさずこなす。不明点を解決するための努力をしている。どのグループに所属しても協働作業を積極的にこなす。			課題提出状況や、授業内・休み時間の様子で判断。(10%)

【提出物状況の評価基準】

- A：期限を守り、答えの丸写しではなく自分の考えで8割以上解答している。
- B：解答はしっかりとできているが期限を守れなかった。
もしくは期限を守れたが空欄が2割以上ある。
- C：未提出